

# 米国No.1 “マイナー急患全集” 日本語版 マイナーエマージェンシー



- 原著 「Minor Emergencies Splinters to Fractures」
- 原著者 Philip Buttaravoli
- 監訳 大滝 純司 (東京医科大学 教授 総合診療科 / 医学教育学講座)
- 編集 齊藤 裕之 (同善会クリニック 副院長)

定価 14,700円 (本体14,000円 税5%)

B5判・764頁・オールカラー ISBN978-4-263-73122-2

## MINOR EMERGENCIES

日本でもすでに好評の原著, ついに邦訳  
三大救急疾患以外の急患症例を網羅!!

Pencil Point Puncture

### 鉛筆の芯による刺創

140

事例 140 鉛筆の芯による刺創

#### 臨床像

患者は尖った鉛筆の芯が皮膚に刺さったと訴える。鉛中毒を明らかにまたは無  
患者は意識に心配している患者もいる。受傷部には内側に黒鉛の刺青で覆われた小さな  
刺創が認められる(図 140-1)。鉛筆の芯は、創内に残存して外部から視認できる  
場合もあれば、触知のみが可能な場合や、残存していない場合もある。創部の触



図 140-3 鉛筆の芯による古い刺創から生じた外傷性刺青

#### すべきこと

#### 患者やその保護者

#### 鉛は粘土

患者やその保護者に、鉛中毒の危険性はないことを説明して安心させる。鉛筆  
は粘土と黒鉛からつくられているため、実際には炭素であり、毒性はない。  
創部の触診および視診を行って異物の有無を確認する。はっきりしない場合  
は超音波検査か超音波検査を行って異物の存在を否定する。異物としては残存して  
いないことのほうが圧倒的に多く、多くは黒鉛の黒い粒子が埋まっているだけで  
ある。

創部をこすり洗いで汚れを落とす。

#### してはいけないこと

#### 初診時に創部全体を切除すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

#### 予防的抗生物質を処方すること

明解な写真・図を駆使



図 140-1 尖った鉛筆の芯による刺創

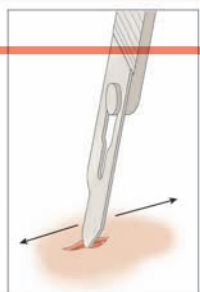


図 140-2 刺青の量を減らすために削皮する

創部全体を切除するのは、術後の瘢痕  
が刺青よりも悪影響を及ぼすことが多い  
ため、明瞭ではない。鉛筆の芯が表層部に  
異物として埋入している場合は、事例  
140に簡単な除去法が紹介されているの  
で、これを参照すること。しかしこうし  
た創部では、ほとんどの場合、異物の残

存はなく、ただ存在するように見えてい  
るだけである。したがって医師としては、  
刺青の予防を第一に考えるべきである。  
まれではあるが、深い刺創や異物の残  
存のために手術室で試験切開を行わねば  
ならない場合もある。

疾患や対処法に関わる  
エビデンスを中心に解説

● 弊社の全出版物の情報はホームページでご覧いただけます。  
<http://www.ishiyaku.co.jp/>



医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

電話 03-5395-7610 FAX 03-5395-7611

● ご用命はぜひ当店へ

医歯薬出版図書 © 取扱店

# 対応に困る“専門外”を助ける!!

**マイナーエマージェンシー Minor Emergencies** 即時生命危機には至らないが、救急対応が必要な急患のことを指す。三大救急疾患、つまり「心筋梗塞」「脳卒中」「急性腹症」以外の急患である。即時的に生命を脅かさないが、放っておくと命に関わる症状も含み、安易に放置しておくことは危険な、いわゆる「軽症疾患」である——が、専門外の症状においては、処置・治療などの対応に困惑する可能性もある。「異物を誤飲した」「指輪が外れない」「朝起きたら、腕が動かなくなっていた」「ファスナーに皮膚をはさんだ」「めまいが止まらない」「日焼けしすぎてしまった」など。

## MINOR EMERGENCIES

### C O N T E N T S

#### 第1部 神経・精神科領域の急患例

薬物誘発性ジストニア / 熱中症(熱浮腫・熱失神・熱痙攣・熱疲労) / 過換気 / ヒステリー性の昏睡・偽てんかん発作 / 特発性顔面神経麻痺(ベル麻痺) / 片頭痛 / てんかん発作(痙攣・ひきつけ)——成人 / 痙攣発作(痙攣・ひきつけ)——熱性おび小児 / 緊張型(筋収縮性)頭痛 / 軽微・軽度の頭部外傷(脳震盪) / 血管迷走神経性失神・神経心臓性失神・神経調節性失神(気絶・卒倒) / めまい(めまい感・頭部ふらふら感) / 脱力・衰弱

#### 第2部 眼科領域の急患例

結膜炎(赤目) / コンタクトレンズ合併症 / 角膜上皮剥離 / 異物——結膜 / 異物——角膜 / 麦粒腫(ものもらい) / 虹彩炎(急性前部ぶどう膜炎) / 眼窩周囲の浮腫・結膜の浮腫 / 眼窩周囲の斑状出血(眼瞼皮下出血) / 位置がずれたコンタクトレンズの取り外し / 結膜下出血 / 紫外線角結膜炎(溶接工の熱傷・日焼け用ベッドにおける熱傷)

#### 第3部 耳鼻咽喉科領域の急患例

耳垢塞栓(耳垢の詰まり) / 鼻出血(鼻血) / 異物——耳 / 異物——鼻 / 異物——咽頭 / 喉頭気管支炎(クループ) / 単核球症(伝染性単核球症) / 鼻骨骨折 / 外耳炎(スイマーズイヤー)——急性 / 中耳炎——急性 / 漿液性(滲出性)中耳炎(膠耳) / 鼓膜穿孔(鼓膜破裂) / 咽頭炎(咽頭痛) / 鼻炎——急性(鼻水) / 鼻副鼻腔炎(副鼻腔炎)

#### 第4部 口腔科領域の急患例

アフタ性潰瘍(口腔潰瘍) / 口腔内灼熱症候群・舌灼熱感(舌痛症) / 口腔・口唇の裂傷 / 粘液嚢胞(粘液瘤) / 口腔カンジダ症(鵝口瘡・酵母感染症) / 口腔単純ヘルペス(口腔ヘルペス・熱のはな) / 歯列矯正に伴う合併症 / 口角炎 / 唾石症(唾液腺管結石) / 顎関節症(TMD)(顎関節症候群) / 顎関節脱臼 / 口蓋垂浮腫——急性

#### 第5部 肺・胸部領域の急患例

気管支炎(気管支炎型の感冒)——急性 / 肋軟骨炎・筋骨格系胸痛 / 吸入性障害(気道熱傷) / 刺激性のある無能力化剤への曝露(催涙薬・暴動鎮圧剤・催涙ガス) / 肋骨骨折・肋軟骨損傷(あばら骨の骨折)

#### 第6部 消化管領域の急患例

裂肛 / 便秘・過敏性腸症候群・疝痛(胃痙攣) / 下痢(急性胃腸炎) / 蟻虫症(蟻虫・線虫) / 食塊による食道閉塞 / 異物——直腸 / 異物——誤飲 / 痔核(痔) / 無害な誤飲 / しゃっくり(吃逆) / 嘔吐(食中毒・胃腸炎)

#### 第7部 泌尿器科領域の急患例

事例 陰嚢の鈍的外傷 / 着色尿 / 精巣上体炎 / 性器ヘルペス / 包茎・嵌頓包茎 / 急性細菌性前立腺炎 / 尿道炎(淋病・淋疾) / 急性尿閉 / 単純性下部尿路感染症(膀胱炎) / 上部尿路感染症(腎盂腎炎)

#### 第8部 婦人科領域の急患例

バルトリン腺腫瘍 / 尖圭コンジローマ(性器疣贅) / 接触性外陰陰炎 / 月経困難症(月経痛) / 腔内異物 / “モーニングアフター”緊急避妊薬 / 骨盤内炎症性疾患(PID) / 腔出血 / 腔炎

#### 第9部 筋・骨格系領域の急患例

肩鎖関節(肩関節)離開 / 足関節捻挫(足首の捻挫) / 輪状靱帯の転位——橈骨頭の亜脱臼(肘内障) / 指のボタン穴変形 / 第5中手骨骨折(ボクサー骨折) / 滑液包炎 / 手根管症候群 / 頸部捻挫(むち打ち損傷) / 橈骨神経浅枝の絞扼障害(手錠神経障害) / 鎖骨骨折 / 尾骨骨折 / ドッセルバン腱傍組織炎(母指腱滑膜炎) / 伸筋腱剥離——末節骨(野球指・槌指) / 手指の脱臼(PIP関節) / 手指の捻挫(PIP関節) / 指尖部(Tuft)骨折 / 深指屈筋腱剥離——末節骨(スプレーフィンガー) / ガングリオン嚢胞 / 痛風性関節炎——急性 / 膝関節捻挫 / 外側上顆炎・内側上顆炎(テニス肘・ゴルフ肘) / 靱帯捻挫(関節包の損傷を含む) / 膝のロッキング / 腰椎捻挫——急性(“機械的”腰痛・仙仙関節機能障害) / 単関節炎——急性 / 痙攣(こむら返り) / 筋挫傷・筋断裂 / 筋筋膜痛症候群——線維筋痛症(トリガーポイント) / 膝蓋骨の脱臼 / 足底筋膜炎(“踵骨棘”) / “足底腱”断裂——腓腹筋断裂 / 橈骨神経麻痺(土曜の夜麻痺) / リウマチ性多発筋痛症 / 橈骨頭骨折 / 橈骨神経麻痺(土曜の夜麻痺) / 舟状骨骨折 / 肩関節脱臼 / 腱障害:腱症・腱傍組織炎 / 足趾骨折(ブローレントー) / 斜頸 / 母指の尺側側副靱帯断裂

#### 第10部 軟部組織領域の急患例

スポーツ損傷 / 挫傷(打撲傷) / 手指または足趾の爪剥離 / 指尖部の浅い皮膚・軟部組織欠損創 / 釣り針の除去 / 爪下異物 / 異物のある刺傷——軽傷 / 哺乳類による咬傷 / 爪床裂傷 / 爪根の位置異常 / 足底の伏針(異物) / 爪囲炎 / 鉛筆の芯による刺創 / 刺創 / 指輪の除去 / とげ——表層部(細長い異物) / 皮下異物(金属片・歯の破片・ガラス片・砂利・硬いプラスチック片) / 爪下出血斑(テニス趾) / 爪下血腫 / 耳垂の裂創・耳垂裂 / 外傷性刺青・擦過傷 / ファスナーの食い込み事故(陰茎・顎)

#### 第11部 皮膚科領域の急患例

アレルギー性接触皮膚炎 / 節足動物による刺咬(虫刺され・虫刺症) / 皮膚の膿瘍・膿胞 / 皮膚幼虫移行症(皮膚爬行症) / おむつ皮膚炎(おむつかぶれ) / 丹毒・蜂巣炎・リンパ管炎 / ファイアーアントによる刺傷 / 摩擦による水疱(靴まめ) / 軽度凍傷・凍傷 / 軽度低体温症 / 帯状疱疹(帯状ヘルペス) / ハチ(ミツバチ・スズメバチ・アシナガバチ)刺症(ハチ刺傷) / 膿痂疹 / II度(部分層)熱傷・タール熱傷 / シラミ症(シラミ・ケジラミ) / パラ色皰癬疹 / 化膿性肉芽腫(毛細血管拡張性肉芽腫)(増殖性肉芽) / 疥癬(ヒトヒゼンダニ) / 日焼け / 足白癬・股部白癬・体部白癬(水虫・いんきんだむし・ぜにたむし) / ウルシ類によるアレルギー性接触皮膚炎(ツタウルシ・アメリカツタウルシ・ドクウルシ) / 蕁麻疹——急性 / 疣贅(尋常性疣贅・足底疣贅)